

# eスクール ステップアップ・キャンプ 2025 鹿児島大会 報告 (1)

園田学園大学教授 堀田博史

## 1 大会概要

(一財)日本視聴覚教育協会・日本視聴覚教具連合会主催、文部科学省・鹿児島県教育委員会共催「eスクール ステップアップ・キャンプ 2025 鹿児島大会」が、鹿児島県教育委員会主催「かごしま『教育の情報化』フォーラム」と同時開催により、2025年10月29日(水)・30日(木)、鹿児島県鹿児島市カクイックス交流センター(かごしま県民交流センター)を会場として開催された。大会テーマは「GIGAスクール2.0—教育DXで拓く新たな学び—」で、会場とオンラインで584名の参加者のもと盛大に行われた。

本誌では、2回にわたり、内容を報告する。

29日第1日目は、午後より鹿児島市立名山小学校2年算数、鹿児島市立長田中学校1年数学と3年英語の授業が公開された。

その後、開会式に続きトークセッション「デジタル学習基盤を前提とした学びの在り方」をテーマに、鹿児島市教育委員会 木田博教育DX担当部長がホストを務め、ゲストに、文部科学省初等中

等教育局学校情報基盤・教材課 寺島史朗課長、鹿児島国際大学 辻慎一郎准教授、南九州大学 渡邊光浩准教授らを迎え、セッションが開催された。

30日第2日目は、午前10時から開会式が行われ、主催者を代表して日本視聴覚教育協会 大久保昇会長からは、eスクール ステップアップ・キャンプの歴史について触れられ、本キャンプが学校教育に参考となる情報発信を続けていると祝福の言葉があった。開催地・鹿児島県 地頭所恵教育長からは、鹿児島県のデジタル学習環境の活用について期待を語られ、児童生徒は自分の考えを効果的に表現することに課題があり、解決に向けた授業改善が必要であると挨拶いただいた(写真1)。

午前中の基調講演では、文部科学省初等中等教育局学校情報基盤・教材課 寺島史朗課長による「GIGAスクール構想が拓く教育の未来」と題したお話しがあった。

それに続き、デジタルポスターセッションが行われた。鹿屋市立上小原小学校 大谷周三教諭、指宿市立池田小学校 松山讓教頭、鹿児島市立向陽小学校 西原真琴教諭、南さつま市立川畑小学校 野崎弘樹教諭、志布志市立伊崎田中学校 黒木彰仁教頭、南さつま市立金峰学園 木場華子教諭、和泊町立城ヶ丘中学校 八木妙子教諭、枕崎市立別府小学校 野浦知生教諭、鹿屋市立鹿屋女子高等学校 藤田貴瑞教諭、茨城大学教育学部附属学校園 毛利靖統括長・教授、神戸市教育委員会 中井貴章指導主事、鹿児島県天城町教育委員会 國分裕二主幹兼指導主事から、興味深い実践発表をいただいた。

同日午後には、文部科学省委託「(情報モラル教育推進事業)情報モラル教育指導者セミナー」が、(株)NTTExCパートナーの協力のもと、常葉大

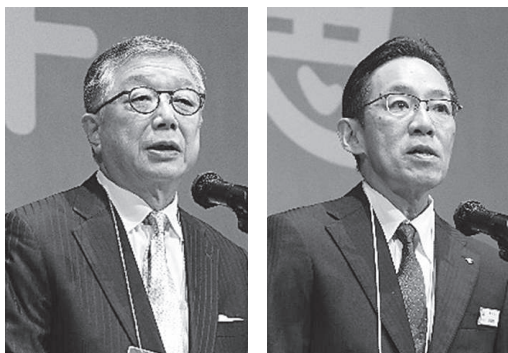


写真1・大久保会長・地頭所教育長のご挨拶



写真2・情報モラル教育指導者セミナー



写真3・展示の様子

学 酒井郷平准教授のご指導、授業実践者として千葉県柏市立大津ヶ丘第一小学校 佐和伸明校長から発表があった（写真2）。

本大会の締めくくりとなるパネルディスカッションでは、「探究のプロセスを下支える情報活用能力の育成」と題し、文部科学省初等中等教育局 学校情報基盤・教材課 寺島史朗課長、鹿児島県立加世田常潤高等学校 熊埜御堂宏一教諭、兵庫県たつの市立龍野東中学校 城田由香理教諭、東京都渋谷区立神南小学校 鍋谷正尉主幹教諭らに登壇いただいた。

今回も大会を支えていただく多くの企業に賛同をいただき、最新のICT教材・機材展示の出展を得た。(株)内田洋行、エスオーエス(株)、SB C&S(株)、NTTドコモビジネスソリューションズ(株)、エプソ販売(株)、(株)エム・エム・シー、さつき(株)、Jamf Japan(同)、JR四国ソリューション(株)、シャープマーケティングジャパン(株)、Sky(株)、スズキ教育ソフト(株)、Dynabook(株)、多摩電子工業(株)、テクノホライズン(株)、東京書籍(株)、日本マイクロソフト(株)、広島県教科書図書販売(株)、(株)ミライムプラス、理想科学工業(株)、(株)YEデジタルの21社より、多くの有用な情報を提供いただいた。また、その一角では、文部科学省相談コーナーも設けられた（写真3）。

同時開催として、公開授業（②公開授業の項参照）や分科会による「かごしま『教育の情報化』フォーラム」も開催された（写真4）。なお、「eスクール ステップアップ・キャンプ 2025 鹿児島大会」のプログラムとともに、一部オンライン



写真4・かごしま『教育の情報化』フォーラム分科会

配信も行われた。

## 2 公開授業

### ①公開授業（英語・中学3年生）

鹿児島市立長田中学校 安田洋幸教諭

授業は、生徒同士によるヒントクイズの出し合いからスタートし、自然な英語でのやりとりが展開された。

ホワイトボードにはラージタスク、端末には本時の学習プランが常に見られるようになっており、生徒が自らの学びの見通しを持って主体的に取り組める環境が整えられていた。

### ②公開授業（数学・中学1年生）

鹿児島市立長田中学校

田代憲一郎教諭 内木場心夢教諭

授業は、「比例と反比例の関係を自らのペースで探究する自由進度学習」として構成されており、ICTを活用した個別最適な学びの実現に向けた先

進的な実践である。

これまでの一斉学習を打破し、「進度の差」が「学びの差」ではなく「学び方の多様性」を尊重した好事例であった。

### ③公開授業（算数・小学2年生）

鹿児島市立名山小学校 中村笑子教諭

単元は小学校2年算数「はこの形」で、まず児童が実際に箱を操作しながら、立体図形の特徴を理解していく。

ホワイトボードには図や分類表、視覚的アイコンが整理され、児童の思考を支援する。「ミッションい」、「ミッションう」、「ミッションえ」の3つの課題が用意され、児童は自由進度で取り組む構成で授業が展開された。

## 3 トークセッション

「デジタル学習基盤を前提とした学びの在り方」をテーマに、鹿児島市教育委員会 木田博教育DX担当部長がホストを務め、ゲストには文部科学省初等中等教育局学校情報基盤・教材課 寺島史朗課長、鹿児島国際大学 辻慎一郎准教授、南九州大学 渡邊光浩准教授（写真5）らを迎えた。

冒頭、木田部長より、「これからの学びはデジタル学習基盤が前提となる」という視点が提示された。続いて、寺島課長から「深い学び」の実現に向けた視点、情報活用能力の抜本的な向上の必要性、情報の領域をどう捉え、教育課程に位置づけていくかという論点が整理された。



写真5・トークセッション

辻准教授からは、オランダの教育事情を踏まえた比較的視点が示され、渡邊准教授からはかつてのICT活用の教育実践から、情報活用能力育成を体系表なども含め、より指導しやすくすることが抜本的向上の1つであると話があった。

最後に、寺島課長より学習指導要領の前文に触れた締め言葉があった。「前文には、現在の学びに通じる理念が多く含まれており、多くの先生方が本当は実現したかった、子供が主体的に学ぶ姿、デジタル学習基盤があるからできる時代になった」と今後への期待が語られた。

## 4 基調講演

「GIGAスクール構想が拓く教育の未来」をテーマに、文部科学省初等中等教育局学校情報基盤・教材課 寺島史朗課長（写真6）から、「教育を取り巻く環境の変化と学習指導要領改訂の議論」と「デジタル学習基盤による学びの変革」のお話があった。

人口減少・少子高齢化、グローバル化、社会の急速なデジタル化、人生100年時代と教育を取り巻く環境が変化している。2040年代、情報技術はさらに進展することが予想され、情報活用能力は多様な個人の思いや願い、意思を具現化するチャンスにもつながると続けられた。一方で、負の側面が生じる仕組みを理解し、適切に対応できる力が必要となると加えられた。

今後の取組のポイントとして、①GIGA×主体的・対話的で深い学び（特に深い学び）、②GIGA

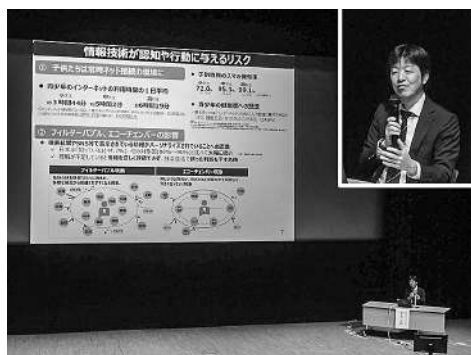


写真6・基調講演

×教師の指導性、③GIGA×教育委員会の組織的  
伴走支援が求められる。

行政、学校現場が一丸となって、児童生徒が自  
分のよさや可能性を認識し、多様な人々と協働し  
ながらさまざまな社会的変化を乗り越えられるよ  
うに、その実現目指して頑張ろうと締めくくられ  
た。

## 5 デジタルポスターセッション1

1つのセッションの持ち時間を15分間とし、発  
表と活発な議論が計12件行われた。以下の報告は、  
配布資料より抜粋、編集したものである。

### ①「思考ツールを用いた対話活動と学級通信の Webサイト化」

鹿屋市立上小原小学校 大谷周三教諭

まず思考ツールで対話活動の活性化を図った結  
果、児童のより深い学びにつなげることができたと  
振り返られた。またICTを活用して教材作成する  
ことで、短時間で簡単に授業準備ができると紹  
介された。

学級通信のWebサイト化では、全児童の作品や  
写真などを鮮明に保護者に届けることができるよ  
うになったなど、その効果を共有いただいた(写  
真7、発表要旨33頁)。



写真7・鹿屋市立上小原小学校の発表

### ②「『循環型研修システム』と『生成AI活用』で 進める教育DX」

指宿市立池田小学校 松山讓教頭

教育DX推進の課題は、ICTスキル格差と業務  
負担増大にあった。そこで第一に、「循環型研修シ

ステム」を構築、年7回、30分程度のショート研  
修は、教頭が講師を務め、参加の心理的ハードル  
を下げ、継続的な学びを担保した。

第二に、生成AIによる業務改善に着手、市内教  
頭研修会で「教頭業務×生成AI」を掲げ、管理職  
の効率化が児童生徒と向き合う時間を創出する可  
能性を提示し、当事者意識を喚起したと報告され  
た(写真8、発表要旨34頁)。



写真8・指宿市立池田小学校の発表

### ③「生成AIと歴史探究～織田信長と秀吉の天下統 一を追いながら『問い』を育む新しい学び～」

鹿児島市立向陽小学校 西原真琴教諭

小学校6年生社会科「天下統一を目指した武将  
たち」の単元の終末に、子供たちが自力での考察  
に限界を感じたタイミングで、考えをさらに深め  
るための「軍師」として生成AIを導入した。

最大の成果は、子供の学習に対する主体性が格  
段に向上した点にある。AIが提示する多様な視点  
や歴史上の人物との疑似対話に触発され、「やらさ  
れる学習」から「知りたいから調べる学習」へと  
意識が大きく変化したと報告があった(写真9、発  
表要旨35頁)。



写真9・鹿児島市立向陽小学校の発表

#### ④ 「現場に寄り添う教育DX—学びと働き方を変える『猫の手』アプローチ—」

南さつま市立川畑小学校 野崎弘樹教諭

児童が主体的に学びを進められるよう、授業の見通しや学び方の自己選択・自己決定、振り返りを重視した算数科の実践を全学年で展開した。

アンケートや授業公開での意見から、児童が自分の学習過程を客観的に振り返り、学びの見通しをもって活動できるようになった。

また、DXの進展により業務効率が向上し、職員の負担軽減につながった。苦手意識を持っていた教員も、段階的な研修を通じて少しずつ得意分野を広げ、DX推進への自信を深めていったことが明らかとなったと報告された（写真10、発表要旨36頁）。



写真10・南さつま市立川畑小学校の発表

#### ⑤ 「クラウドを効果的に活用した教育DX実践」

志布志市立伊崎田中学校 黒木彰仁教頭

県域アカウントによる「Canva教育版」を活用し始めた結果、Canvaホワイトボードやデータ配信システムの導入により、職員のICT活用への自



写真11・志布志市立伊崎田中学校の発表

信が高まり、授業での実践が拡大している。

また、まなびポケットによる配付物の配信等は保護者から「便利でありがたい」と高評価を得ている。

さらに、ロイロノート・スクールを活用した家庭での運動記録の相互啓発により、週3日以上運動する生徒が62.5%から87.5%に増加。体育が楽しい生徒も95%に達し、生徒のウェルビーイング向上という大きな成果にもつながっていると報告があった（写真11、発表要旨37頁）。

#### ⑥ 「タブレット端末が学習の可能性を広げ、出会いを増やす」

南さつま市立金峰学園 木場華子教諭

生成AIを活用した音読劇のイメージの手助けや県外とのリモート交流、自由進度学習への取組など、タブレット端末の活用が学習の可能性を広げ、出会いを増やす機会となっている。

一方、児童生徒のアプリ活用方法について、保護者への説明会や情報提供の重要性も感じ、児童生徒が安全に、かつ効果的にアプリを利用できるよう、学校全体でのルールやガイドラインを設定し、教師と保護者が連携してサポートする体制を整え、さらに、定期的な校内研修での技術アップや、定期的なメンテナンスも検討する必要がある。

これにより、教育現場でのICT活用がより一層推進されると報告があった（写真12、発表要旨38頁）。



写真12・南さつま市立金峰学園の発表

次号では、デジタルポスターセッション（後半）、パネルディスカッションの様子を報告する。

# eスクール ステップアップ・キャンプ 2025 鹿児島大会 報告 (2)

園田学園大学教授 堀田 博 史

## 1 大会概要

(一財)日本視聴覚教育協会・日本視聴覚教具連合会主催、文部科学省・鹿児島県教育委員会共催「eスクールステップアップ・キャンプ2025鹿児島大会」が、「GIGAスクール2.0ー教育DXで拓く新たな学びー」を大会テーマに、2025年10月29日(水)・30日(木)、鹿児島県鹿児島市カクイックス交流センター(かごしま県民交流センター)を会場として開催された(写真1)。

前号では、トークセッション、基調講演、デジタルポスターセッション(前半)を報告した。

今回は、デジタルポスターセッション(後半)、パネルディスカッションの様子を報告する。



写真1・会場の様子

## 2 デジタルポスターセッション2

⑦『「できない」を『できる』に変える DXシフト  
～Microsoft Teamsを活用した全職員参加型の業務改善～』

和泊町立城ヶ丘中学校 八木妙子教諭



写真2・和泊町立城ヶ丘中学校の発表

Teamsを活用した校務のDX化を進めている。導入前の課題は、職員会議の資料管理が非効率的で、「ファイル等の乱立」や「元データの行方不明」といった問題が山積していた。最大の成果は、教務主任の負担軽減である。教務主任の超過勤務は、昨年度と比較して40時間を超える月が減少した。また、情報共有の効率化も大きな成果である。Teamsを職員会議だけでなく、職員研修や島内他校との資料交換にも活用するようになり、教員一人一人が積極的に活用方法を模索するようになった。DXは、特定の担当者だけでなく、学校全体の業務改善を促す基盤となっていると報告された(写真2、発表要旨14頁)。

⑧「鹿児島教育DX推進リーダー第1期生としての取組」

枕崎市立別府小学校 野浦知生教諭

鹿児島教育DX推進リーダーは、県教委から認定され、県内各地区、各市町村教育委員会における学校DX推進事業等への協力を通して、県下全域の「教育の情報化」や学校教育DXを強力に推進するリーダーである。活動する中で、教育にか



写真3・枕崎市立別府小学校の発表

かわるさまざまな現場の先生方が、ICTの良さを知っているものの、具体的な仕組みやその活用方法の部分で、多くの悩みやもどかしさを抱えていることがわかった。要請があれば、対象の先生方がどのような状況にあるかを正確に分析した上で、研修内容の企画立案をしなければならない。今後もさまざまなニーズに応えることができるように、自身の先進的研修に取り組み、その成果を多くの先生方に還元し、本県教育DX推進の一助になればと語られた（写真3、発表要旨15頁）。

### ⑨ 「商業科目における個別最適な学習環境整備」

鹿屋市立鹿屋女子高等学校 藤田貴瑞教諭  
部活動等の大会やさまざまな理由で授業を受けられない生徒がいる。これまでは学習した教科書の範囲や演習の指示をする程度で、授業を受けられなかった生徒の対応をどうするかが課題となっていた。個別最適な学習環境の整備をはじめたきっかけである授業動画の配信を行うことで、生徒側のメリットは、時間や場所にとらわれず、理



写真4・鹿屋市立鹿屋女子高等学校の発表

解度に合わせて何度も動画を視聴し、学習のペースを調整することができる。教師側のメリットは、欠席者への対応が基本的に不要になり、時間的余裕ができる。また、授業を客観的に見ることで、授業展開を見直したり、指導方法改善の機会になると振り返りをされた（写真4、発表要旨16頁）。

### ⑩ 「GIGA 第二期に求められる生成AI活用とSTEAM教育」

茨城大学教育学部附属学校園

毛利靖統 統括長・教授

予測できない時代を生きていく今の子供たちに対して、幼小中12年間を通して、探究的な学びや生成AI活用、STEAM教育を実践している。しかし生成AIの活用については、学習での可能性を感じている反面、保護者だけでなく80%の生徒が「不安がある」と答えている。生徒の今後の生活では当たり前ようになっていく生成AIについては、よりよく理解し利用するだけでなく、興味を持って開発する人をいかに増やしていくかが、今後の日本には重要な課題である。教科の学力を高めるための活用だけでなく、生成AIやプログラミングなどのスキルを評価する仕組みが重要ではないかと課題も共有された（写真5、発表要旨17頁）。



写真5・茨城大学教育学部附属学校園の発表

### ⑪ 「NEXT GIGAを本当のNEXT GIGAにするための支援の在り方～神戸市の現場密着型件走支援の実践～」

神戸市教育委員会 中井貴章 指導主事

全校にICT環境を整備し、学びの質の向上を推進している。令和6年端末活用率（毎日＋週3回以上）は小81.0%・中67.6%と全国平均を上回り、

着実に上昇中である。一方で小45.8～100%、中10.6～96%という学校間格差があり、その解消に向けた取組を強化している。全校訪問・授業参観を通じて現場の課題を把握し、区担当が継続的に関わることで学校との距離が縮まり、端末を活用した子供主役の学びをともに考える機運が高まっている。端末利用率も令和7年度全国学力学習状況調査で小79.5%・中58.8%と全国平均を上回るか相当の水準であったと報告があった(写真6、発表要旨18頁)。



写真6・神戸市教育委員会の発表

## ⑫ 「子供×町ぐるみ×ICTーユイの里から広がる 共創型教育DXー」

鹿児島県天城町教育委員会  
 園分裕二主幹兼指導主事

離島という地理的特性を活かし、教育DXとGIGAスクール構想を通じて、地域資源・文化・人材を教育に融合させる「町ぐるみの学び」を推進している。結果、事務作業が約20～25%（年間約45～60時間）削減され、教職員の負担軽減等（時間的負担の軽減や授業準備・子供たちへの対応

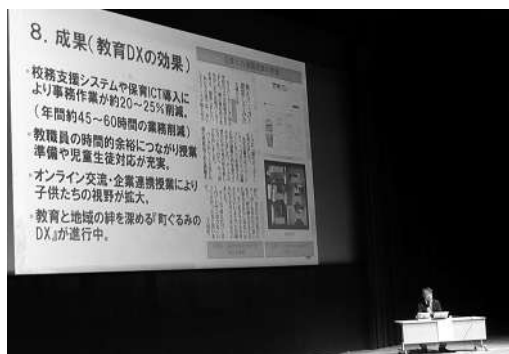


写真7・鹿児島県天城町教育委員会の発表

の充実など)につながっている。また、積極的にオンライン交流や企業連携授業等も展開し、「AMAGI DIGITALDAYS」には、約300人が参加し、子供から高齢者までの世代間交流もでき、「楽しく学べた」、「世界が広がった」と好評であった。実践等をアップデートしながら、教育DXとGIGAスクール構想のさらなる実現に向けて取り組みたいと報告された(写真7、発表要旨19頁)。

## 3 パネルディスカッション

「探究のプロセスを下支えする情報活用能力の育成」をテーマに、コーディネータを筆者が務め、オブザーバーに、文部科学省初等中等教育局学校情報基盤・教材課 寺島史朗課長、そして、パネリストに、鹿児島県立加世田常潤高等学校 熊埜御堂 宏一教諭、兵庫県たつの市立龍野東中学校 城田由香理教諭、東京都渋谷区立神南小学校 鍋谷正尉主幹教諭の3名に登壇いただいた。

パネルディスカッション(写真8)では、次期学習指導要領の策定にあたり重要なキーワードとなる「探究的な活動」と「情報活用能力育成」をもとに、小・中・高等学校の現場での実践活動を報告いただいた。テーマは、「普及」と「一般化」で、各校種での探究活動の実際と情報活用能力の育成を共有し、それを普及させるには、どのような手立てが必要かを議論した。

まず、鹿児島県立加世田常潤高等学校の熊埜御堂教諭から「総合的な探究の時間」は「科目課題研究」で代替している。課題研究は、2年次2単位・3年次4単位である。地元南さつま市「飛びたて高校生事業」として助成金をいただき活動を展開するとともに、昨年度採択された「DX加速化推進事業」で導入した資機材を活用している。学校や地域の課題解決や活性化に向けてテーマを設定し、研究の効率化・データ化を図り取り組んでいると報告された。

城田教諭は、兵庫県たつの市立龍野東中学校で取り組む、学年に応じた3段階の探究プロセスを紹介された。1年次で探究の基礎と情報活用能力を育成し、2年次ではSDGsや時事的なテーマを



写真8・  
上左から筆者、  
寺島課長、  
城田教諭、  
下左から熊埜御堂教諭、  
鍋谷主幹教諭

通じ、情報の収集・分析を実践する。そして3年次で集大成の地域探究「T-OWNプロジェクト」へと発展させている。「課題の発見から解決まで」を生徒自身で進めるための力をこの系統的なプロセスの中でどのように育てているかを紹介された。

鍋谷主幹教諭の渋谷区では、全校が授業時数特例校として探究的な学びに重点を置いた教育活動を展開している。小学校においては、子供の中にある興味関心をどう探究的な学びにつなげていくか、発達段階を踏まえた取組を試行錯誤している。また子供が興味関心の幅を広げていくために、授業だけではなく学校生活全般においてどのようなサポートや出会いの可能性があるかについて、STEAM教育との接続も視野に入れた試みを紹介された。

本パネルディスカッションでは、児童生徒が探究的な活動を通して、自立した学習者として成長していく過程を実感し、それを支える情報活用能力を習得していく姿を共有できた。学習の基盤として育成すべき情報活用能力を小・中・高等学校の教師がどのように授業改善しているのか、今後も注目していきたい。

#### 4 今後の展開・展望

以上で、「eスクール ステップアップ・キャン

プ 2025 鹿児島大会」の報告を終える。

本大会は、かごしま「教育の情報化」フォーラムと同時間開催された。鹿児島県、そして鹿児島市の先生方には公開授業をはじめ、デジタルポスターセッションでの事例紹介をいただいた。文部科学省初等中等教育局学校情報基盤・教材課 寺島史朗課長には、大会2日間にご参加いただき、感謝を申し上げたい。

協力企業の皆様には、「教育ICT教材・機材体験展示会」と題して、先進的な教材・教具の情報提供をいただき、大会の運営、そして成功にご尽力いただいた。重ねて御礼申し上げたい。

今大会は、GIGAスクール構想の次なるステージ「GIGAスクール2.0」に向けた新たな教育の可能性を探究した。デジタル学習基盤の活用により、ICTの活用事例等を通して、教育データの利活用や個別最適な学び、授業改善など、「GIGAスクール2.0」における検討事項や課題、具体的な取組を紹介し、参加者と共に未来志向の学校・学びを考えることができた。参加者の皆様に変な有意義な機会となったのではないだろうか。

結びに、今大会はGIGAスクール2.0でのICT環境整備、教育データの活用等に興味・関心がある教育関係者が集まり、学び合える機会となったに違いない。

来年度も本キャンプが開催されることを願い、報告を終える。